

# 羽ばたく子



※学校だよりのタイトル『羽ばたく』は、甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた、舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」になって欲しいとの願いをこめてタイトルとしました。

## 「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」

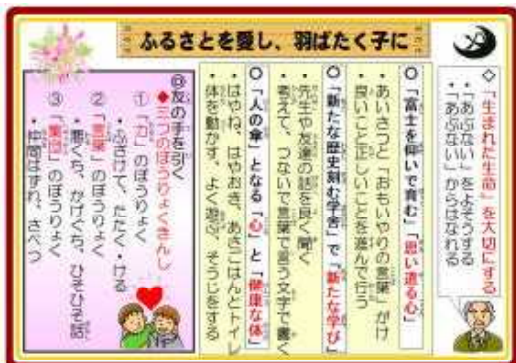
国語の授業に「秋のこぼ」を見つけて俳句や短歌、古文形式で書く授業がありました。折しも11月19日に、学校から「ほぼ皆既月食」を見ることができました。天文学で言えば物理の領域なのでしょうが、改めて自然の不思議さ、畏敬の念を感じた瞬間でした。



2学期も残り僅かとなりました。6年生は、卒業アルバム用の写真取りや制服の展示など、「卒業」という言葉がいよいよ現実味を帯びてきました。何かと慌ただしい「師走」ですが、2学期の締めくくりができるようご家庭でのご指導をお願い致します。

## こうふドリームキャンパス・校歌に込めた想い

市の企画である「こうふドリームキャンパス」に元「THE BOOM」のボーカリストでシンガー・ソングライターの「宮沢和史」さんを招いて、子ども達に校歌に込めた想い、夢について語っていただきました。校歌について宮沢さんは、大人になっても校歌を覚えていて、これからの人生に出会う悲しみを乗り越えられるよう想いを込めて作られたそうです。宮沢さんのご両親の母校であることもあって、何回も考え半日を費やしたことが子ども達からの質問でわかりました。また、音の上がる所は、気持ちが盛り上がり全員で歌っていることを意識できるようにしたそうです。曲を作るだけならばすぐにできるけれども、自分の想いを伝える歌は時間がかかることを知り、夢の話と合わせて宮沢さんは芸術家なのだとしみじみ思いました。

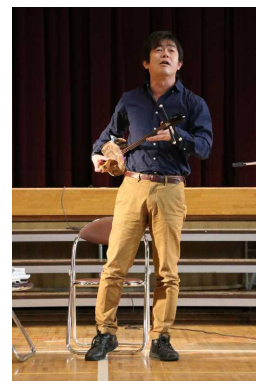


私は、校歌を初めて聴いたとき、とても素晴らしい「詩」だと心を惹かれ歌詞にあるように「羽ばたく」子になって欲しいと願い、自分なりの解釈を加えて「児童用スクールプラン」を作成しました。

児童用スクールプラン「ふるさとを愛し、羽ばたく子」には、全ての子どもが、相手をリスペクトし、明るく温かい雰囲気の中で、短所を補いながら自らの良さを伸ばし、地域・社会に貢献できる社会人の素地としての「思い遣る心」を醸成しながら、「知・徳・体」のバランスのとれた健全な子ども達を育成したい、という願いを込めました。

子ども達は、学校はもとより、学校の礎である「ふるさと舞鶴（相生・穴切・春日）」から「羽ばたく」のだと思います。それは、「ふるさと」を捨てるという意味ではありません。将来、自らの地区に残る子もいるでしょうし、或いは「ふるさと」を巣立って県外や外国で活躍する子もいるでしょう。「羽ばたく」とは短期間では「学校からの卒業」となるでしょうが、人生という長い期間を当てはめるならば、最終的には「自立した社会人としての成人になること」だと思います。そこには、子ども達が大人になって、どこで、どのように過ごしていても、小学校の校歌を口ずさみ、ふと「原風景」である「ふるさと」に想いを寄せたとき、疲れた時には安心して戻れる場所があることを胸に、自分の「ふるさと」を愛し、「ふるさと」に誇りを持ってあゆむ人になってほしいとの想いが根底にあります。

この日は、三密を避けるため、5・6年生が体育館で話を聞き、1～4年生は教室でTV中継を観ることになりました。宮沢さんの授業は、5・6年生の書いた「夢シート」を紹介しながら進められました。子ども達の夢は様々で「漁師になりたい、イラストレーターになりたい」など、具体的な夢から「しあわせになりたい」という究極の夢にも、丁寧に優しい口調でコメントをしていただきました。特に「夢はない」とまだ決まっていな子に対して「これから好きなこと



を見つけて欲しい」と応援してくださりました。「しあわせ」について話をしてくださったとき、「自分がしあわせと思えるのは、自分の周りの人が皆しあわせを感じているとき」との言葉には、島唄へ繋がる宮沢さんの「深い想い・愛」を感じることができました。最後に、子ども達と一緒に校歌を歌いましたが、「人の傘になる・友の手を引く」に込められた想いを考えながら、宮沢さんを通して子ども達から「恒久の平和、しあわせ、人としての生き方など」様々な思いを教えてもらった気がしました。

改めまして、甲府市・ならびに甲府市教育委員会、甲府市長直轄組織 情報戦略室 田村室長様、また、野中様をはじめ歴代PTA役員の皆様、本日を迎えることができましたのも多くの皆様のご支援の賜と感謝申し上げます。そして、素敵な時間を演出してくださった宮沢さん、本当にありがとうございました。

## 多くの人に支えられて…

### ■ 4年伝統工芸学習

「山梨県印章店組合」から講師が来校し、4年生は「はんこづくり」をしました。事前に子ども達の名前をお伝えすると、名前の上の一文字を予め彫りやすいように変形して提示してくださりました。2時間という長い時間でしたが、子ども達は真剣に集中して自分の一文字を彫っていました。年賀状や書き初めで映えるきれいな仕上がりでした。

また、「日本伝統工芸士会」から講師が来校し、「研磨体験」も行いました。研磨する石にワンポイントの図柄を描き、切ったり削ったりしていきます。できあがった子は嬉しそうに自分だけの石を手にしていました。また、水晶玉をワイヤーでつなぎ、かわいいアクセサリも作ることができました。関係機関の皆様には、山梨県の伝統文化の体験ができましたことを改めてお礼申し上げます。

### ■ 「ありがとうネルーシャ先生」

本校の外国語活動、外国語の指導をしてくださっていたALTのネルーシャ先生が、甲府市の人事異動のため、この日が最後の授業となりました。望月先生とのチームティーチングによる授業を見てみると、ネルーシャ先生のお人柄から醸し出す雰囲気もあり、流れるような会話の世界は、まるで外国にいるような錯覚に陥るほどでした。子ども達の外国語によるコミュニケーション能力は、格段に高まったと思います。ネルーシャ先生、子ども達のご支援をありがとうございました。

### ■ 大型絵本の寄贈

地区の行事が三密を避けるため実施できないことが多いため、今年も春日地区民生委員児童委員協議会様から子ども達のためにと「大型絵本」の寄贈がありました。昨年度の本は、図書委員会の「読み聞かせ」などの場面で活用させて頂きました。地域の皆様ありがとうございました。

### ■ 甲府地区総合防災訓練

11月14日には、甲府地区総合防災訓練が舞鶴小学校でも行われました。今年度もコロナ禍の影響を考慮して、全体での避難ではなく、地区の代表の方のビデオによる防災訓練の後、防災倉庫の確認を行いました。「自助・共助」のため、万が一の状況を想定し準備をしていくことの大切さを改めて感じました。災害発生時には、子ども達の安全確保へのご指導をよろしくお願いします。

## コロナ禍の中でできることを…

4年生の「連合音楽会」は、コロナ禍で1つの学校に数校が集まって歌ったり演奏したりすることは三密を避けられないので、各学校の様子をビデオで録画し、グループの学校内で見合うことになりました。レベル2が解除されたので、距離をとって段差を付けない形で、合唱「ビリーブ」と合奏「ブラジル」、そして学校紹介の録画を行いました。

5・6年生は、家庭科の調理実習が実施できました。6年生はこの日、栄養教諭の内海先生においでいただき、「ジャーマンポテトをつくろう」という「めあて」のもと、子ども達はタマネギを切ったりジャガイモをむいたりしていました。調理の後は、給食と同じで同じ方向を向いての会食となりましたが、「タマネギが、目にしみた。」「おいしかった。」と子ども達は嬉しそうに話してくれました。

